

ブドウ新品種

‘シャインマスカット’の品種特性

‘シャインマスカット’は、1988年に独立行政法人農業技術研究機構果樹研究所において安芸津21号（スチューベン×マスカット・オブ・アレキサンドリア）に白南（カッタクルガン×甲斐路）を交配して育成された新品種です。収穫期は9月上旬とやや晩生で、果房重は664g、果粒重は14.8gと大粒です。果肉は崩壊性で硬く、マスカットの香りを持ち、糖度は20.5%と高く、酸含量は0.30g/100mlと酸抜けは良好でした。皮はやや剥けにくいですが、薄いので皮ごと食べることができます（表1）。

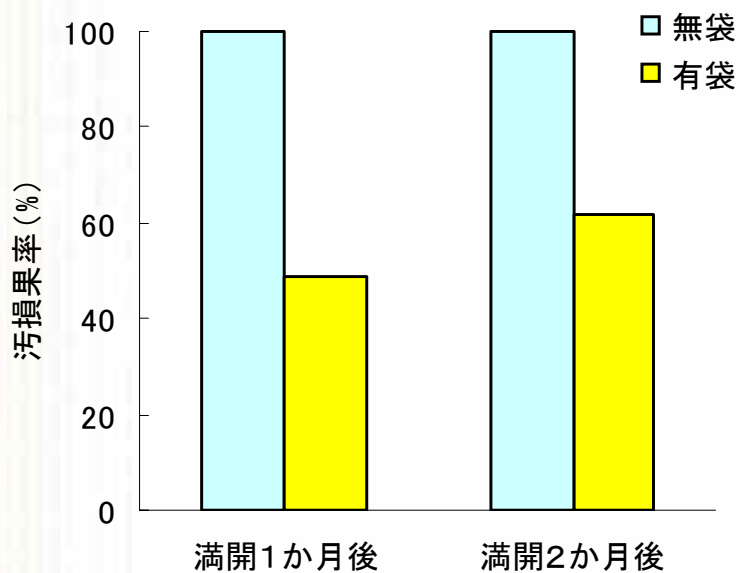


図1 ‘シャインマスカット’における袋掛けの有無と被袋時期の違いが汚損果率に及ぼす影響(2004)

また果皮の汚損軽減のため、白色袋を用いて袋掛け試験を行ったところ、無袋では100%汚損果が発生するのに対し、有袋では、40~50%程度汚損果を軽減することができました。さらに、満開2か月後よりも1か月後の方が汚損果発生率が少なく、早期に袋掛けする方がより効果が高いことが分かりました（図1）。

表1 ‘シャインマスカット’の収穫期および果実特性(2007)

作型および樹齢	収穫期 (月/日)	果房重 (g)	果粒重 (g)	果肉特性	果肉硬度	糖度 (Brix.%)	酸度 (g/100ml)	香り	はく皮
雨よけ栽培9年生	9/10	664	14.8	崩壊	硬	20.5	0.30	マスカット	難